

重かさねて楓橋ふうきょうに宿しゆくす（張継ちようけい）

白髪重来一夢中 青山不改舊時容  
鳥啼月落寒山寺 欹枕猶聽半夜鐘

白髮はくはつ 重かさねて 来きたる 一夢いちむの 中うち

解説 張継が再び蘇州を訪れて「楓橋夜泊」を思い出して作った詩と言われる。

青山せいざん 改あらたまらず 旧時きゆうじの 容すがた

語釈 ※青山〓青い山。※旧時容〓昔のままの姿。  
※鳥啼：からすが啼くこと。※寒山寺〓蘇州の西郊七里の所にある寺。※猶〓そのうえに。※半夜〓夜中。

鳥からす 啼なき 月つき 落おつ 寒山かんざん寺じ

通釈 しらが頭になってふたたびこの地にやって来た。夢の中

枕まくらを 欹そはだてて 猶なお 聴きく 半夜はんやの 鐘かね

にいるようだ。周囲の青い山はまったく昔のままの姿であった。鳥が啼き、月が西に傾くころ、寒山寺から今夜も夜半の鐘が響きわたってきたので、枕をななめにして聴き入ったことである。